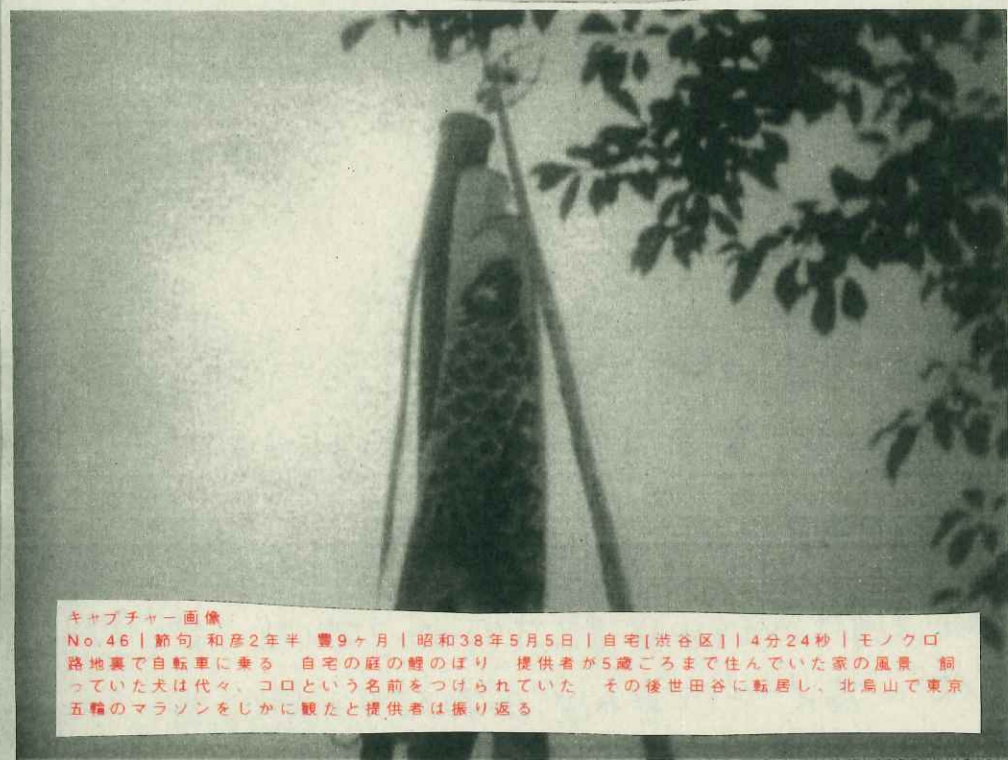
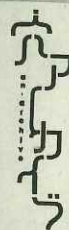


参加者の記憶を媒介とした対面での「言葉の交流」を目的とする、せたがやアカカブの会。今回 (vol.31) から、《ハガキ方式》での遠隔実施と対面実施のハイブリッドで展開します。

今回、ご覧いただいた映像は『節句 和彦2年半 豊9ヶ月』 (no.46、昭和38年5月5日撮影) でした。さて、どのような声が集まってきたのでしょうか。じっくりお楽しみください。

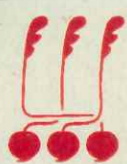


キャプチャー画像
No.46 | 節句 和彦2年半 豊9ヶ月 | 昭和38年5月5日 | 自宅[渋谷区] | 4分24秒 | モノクロ
路地裏で自転車に乗る。自宅の庭の鯉のぼり。提供者が5歳ごろまで住んでいた家の風景。飼っていた犬は代々、コロという名前をつけられていた。その後世田谷に転居し、北島山で東京五輪のマラソンをじかに観た提供者は振り返る。



穴アーカイブ: an-archive

記録を残すという営みを、記録が残らないこと、すなわち、記録の不在(穴)から捉え直す反(an)アーカイブ的アーカイブの試み。昭和30~50年代にかけて市販された8ミリフィルムという映像メディアに着目し、世田谷のまち、ひと、暮らしに光をあてる。2015年から始動。



せたがやアカカブの会 The setagaya akakay circle

穴アーカイブにおいてデジタル化した映像を、じっくり観ながら語り合う小さな集いの場。ほぼ隔月で開催。開催予定、上映内容は、生活工房HPまたはお問い合わせからご確認下さい。一見さん大歓迎。本誌「かぶうずら、やまいもうなぎ」は、当会の断片的・公式活動記録。

穴アーカイブ: an-archive

せたがやアカカブの会 vol.31 《ハガキと対面のハイブリッド》
開催方法: 対面での開催およびアカカブの会々員に郵送で回答・返送してもらいました
開催日時: 2022年6月19日(日) 14:00~15:30
ハガキ募集期間: 5月8日 - 6月7日
回答数: 14名(ハガキ4名 対面10名)

かぶうずら、やまいもうなぎ アカカブの会の記録2022 no.1
発行日: 2022年8月12日

お問い合わせ: 生活工房 03-5432-1543 info@setagaya-ldc.net
編集: せたがやアカカブの会世話人(松本篤、八木寛之、成田海波、ブルサコワありな)
主催・発行: 公益財団法人せたがや文化財団 生活工房
〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー
http://www.setagaya-ldc.net/
企画制作: remo [NPO法人記録と表現とメディアのための組織]
後援: 世田谷区、世田谷区教育委員会
本誌の無断転写、複製、転載を禁じます。

世田谷文化生活情報センター
生活工房
Lifestyle Design Center

(あ) ズザ? 北区田端

(1) 当時は4/29が天皇誕生日(昭和) 5/3 憲法記念日 5/5 こどもの日、で休日。
その中の4/30、5/1、5/2、5/4が日曜で休日だったので、土曜か平日の会社勤務の時代なもので、5/3「連休」の言葉はなかったけれど、「泊りがけで旅行に出る」という意味で、5/4が休みの時は新橋や上野から夜行列車に乗って山梨山(八ヶ岳)や、群馬(尾瀬)には会社の人たちと出かけ。連休にしろ、会社には集合して、皆でトランプの麻雀に集って、夕方に野球をして1日帰る。その日の球場のそばで、夕飯を肴に食べて、練習したり、練習中の知らないチームと試合をした。女子高の下には「海」があって、隣の野球場にいった。休日でも会社の人と行動している人が多く、夕方に家族ぐるみで公園や芝生で遊ぶ。今では飲み会、温泉旅行を求めている。それについても、皆お金の時代だから休日の型が今とは大違いだと思います。

⑦ お伐になって(まいた)
世田谷区三宿



世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83

(あ) うまれる前

(1) 先日子といもが1才で「初節句」だったのだったのしく見ました。こいのぼりを上げたリ、カブトをかぶったリとすることは今と変わらないけれど、子といもの服やおむつやおもちゃやイスなど、違いをくらへ面白かったです。



⑤ 茨城県 33才

世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83

POST-NOVIE

(1) 7才(小学2年生)

(2) 三輪車が、懐しかったです。

あまりに長く、三輪車に乗ることになった(?)いたために、友だちと比べて、自転車デビューが遅かったのを思い出しました。いとお古の自転車が最初でしたが、あの乗った時の瞬間の喜びは、体で覚えています。何かの拍子で、倒れおに走った快感です。

(3) 66才、世田谷区在住



世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83

POST-NOVIE

子どもの服装、顔が、当時にしてはきれいで上流家庭かな? と、ん。

でもこの頃は、も、はら学校に行っていたのでわかる。

No.46

『節句 和彦2年半 豊9ヶ月』
昭和38年5月5日 | 自宅(渋谷区)
4:24 | モノクロ
路地裏で自転車に乗る。自宅の庭の鯉のぼり。



世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83

1. うまれる前、
 2. 映像からですが、この会で出てきたことはやエピソードから思い出したことがたくさんありました。
 3. 45歳 茨城県つくば市
大人になるまで 新宿区で育ちました。
- 現パークハイアットの場所にあたるガスタンク、小さいころ新宿にある水泳教室(スイミング)に行くときに見ていたこと。
- 「メーデー」ということばを知らなかった小さいころ、家のそばの出版社にははちまの太勢の人と松声機でこわかったこと。
- 「不二庵」ということばの特別感。

No.46

『節句 和彦2年半 豊9ヶ月』

昭和38年5月5日 | 自宅(渋谷区)

4:24 | モノクロ

路地裏で自転車に乗る。自宅の庭の鯉のぼり。

三輪車のハンドルにのびるうは、おびんぐにモ
ついていましたね。

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

1. 7才でした。渋谷に居ました。
2. ばっちり 私の子供時代が、うらやましました。
歩行器?の玉もなつかしい。
土地の香りまで、たじよう。
今の人とちがって親も違う?気のせい?
3. 66才 大田区 西横谷

No.46

『節句 和彦2年半 豊9ヶ月』

昭和38年5月5日 | 自宅(渋谷区)

4:24 | モノクロ

路地裏で自転車に乗る。自宅の庭の鯉のぼり。

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

- 1 5~6才 東京葛飾区
- 2 木造平蔵屋一戸建だったが、工場内の社宅だった
ので鯉のぼりの竿が立てられる家はうらやましかった。
ふすまの壺(?)の柄やカーテンの模様を見て、当時
の家のカーテンを思い出した。裕福な家ではなかつた
せいか、母が無地の布にそれ風な模様を刺しゅう
したものだった。こたつカバーも刺しゅうだった。
- 3 64才 横浜

No.46

『節句 和彦2年半 豊9ヶ月』

昭和38年5月5日 | 自宅(渋谷区)

4:24 | モノクロ

路地裏で自転車に乗る。自宅の庭の鯉のぼり。

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

1. 0. 小形
2. 映像からではないのですが、みなさんの貴重なお話し
の中から節句のお菓子の話題が出て
バタークリームケーキへのなつかしさ(郷愁)
お正月、節句、Xmasなど季節毎のお菓子を
作ってきた父の背中を思い出しました。
それと全く話が違いますが、あの犬が新しい家族を
もつてくると観望している様子(ほほえましくもあり)おもしろ
くもありました。

No.46

『節句 和彦2年半 豊9ヶ月』

昭和38年5月5日 | 自宅(渋谷区)

4:24 | モノクロ

路地裏で自転車に乗る。自宅の庭の鯉のぼり。

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

- ① 9才 世田谷区 弦巻
- ② この日生まれた渋谷区から世田谷区に移った。今でも渋谷区、まだ
自分のことだとして当時のオレは家で制服が汚れたら、まだ
思いつくほどのファミリーと何か違う名だしがそのファッションも
何かを後世に残せようと思つた。おじいちゃん、おばあちゃん、それが
かえって、生かして。愛国心をもつて、記念品として思つた。
これから高度経済成長へと社会は向かっていくから、
おままだ。つまり、牧歌的な生活にはあてはまらなかった。
- ③ 現在68才 大田区 西横谷に住んでいます。

No.46

『節句 和彦2年半 豊9ヶ月』

昭和38年5月5日 | 自宅(渋谷区)

4:24 | モノクロ

路地裏で自転車に乗る。自宅の庭の鯉のぼり。

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

昭和38年 22才

高校を出て、所工場で働いていました。

昭和38年をテーマにしたこの会のリポートは素晴らしいです。

昭和39年の大イベントは東京オリンピックでした。でも東京に
住んでいた人にとっては、昭和38年の東京の町のエピソード
は、~~たまたま~~大変な時代だったのです。道路が狭くなる。電
車の工事はあちこちで、電車も遅くなる。車道が狭くなる。
あの時代、東京の町はオリンピックの準備、いよいよ、ついに
です。



『節句 和彦2年半 豊9ヶ月』

昭和38年5月5日 | 自宅(渋谷区)

4:24 | モノクロ

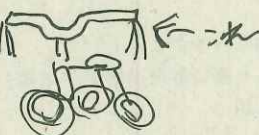
路地裏で自転車に乗る。自宅の庭の鯉のぼり。

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

世田谷 三浦 明子

1. S38(1963)は生まれていません
2. 三輪車のハンドルに付いている鯉のぼり(ひも?)のこと
思い出した。



みなさんと一緒に見て話してみたら、街のなかに
(ゴミのたぐい)のこの色のぼり(当時は今より
濃い色だったそう)など8mmにうつっていないことに
思いがおよんでおもしろかった。節句のお菓子の話など
おもしろそうでした。

No.46

『節句 和彦2年半 豊9ヶ月』

昭和38年5月5日 | 自宅(渋谷区)

4:24 | モノクロ

路地裏で自転車に乗る。自宅の庭の鯉のぼり。

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83

昭和 28才頃 世田谷太子堂

お節句の時はアパートに住んで
いたのですが、小さいころの思い出を
上げたい思い出があります。

息子が三輪車が大好きで「部屋の中で」
うりまわしてました。足がおあきやして

三輪車しやをうりまわしてました。おかげでなりました。

No.46

『節句 和彦2年半 豊9ヶ月』

昭和38年5月5日 | 自宅(渋谷区)

4:24 | モノクロ

路地裏で自転車に乗る。自宅の庭の鯉のぼり。

世田谷クロニクル

Setagaya Chronicle 1936-83